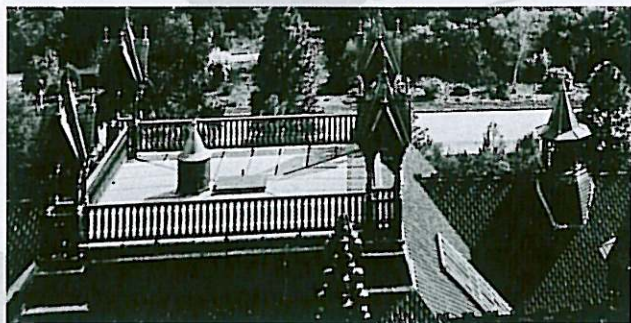


ロトルア博物館の展望台は、バス・ハウスが復元されている北ウイングの屋上にあります。展望台へは、階段をご利用ください。そして、そこからは、素晴らしい景色と、20世紀初期の建築工法をご鑑賞ください。

20世紀初頭にヨーロッパからの訪問者にくつろいでもらうためにあしらわれたオリジナルの手摺や小塔などは、1930年代に取り払われました。おそらく1931年のネピア大震災を受けての判断だと思われます。



メインタワーからの北側の眺め、1910年頃  
ロトルア博物館

### 建築および空調に関する用語集

使用されているニュージーランド固有の木材：カウリ、トタラ、リム、プリリ、マタイ

クイーン・ポスト：トラス構造のひとつ。左右対称に立てた2本のポストと1本の横架材からなる構造、あるいは2重梁のいかなるトラス構造をさす。

サーキング材：屋根材の下で、垂木、母屋桁、天井野縁に固定される細長い板

垂木：屋根材とサーキング材を支えるため、棟から母屋桁、軒先に渡す長い骨組み材

反射光：自然光不足を補うため、窓などから入る外の光を、床に固定してあるガラスなどを通して共有する光

硫化水素(H<sub>2</sub>S)：独特の硫黄のにおいがある、無色のかなり有毒なガス

温度湿度調整：ロトルア博物館ギャラリー内の空気は、硫化水素が混入しないように制御されており、湿度も55%に保たれています。室温は常時20度に保たれています。

先端装飾：尖塔や小尖塔など頂部の装飾

ハーフティンバー建築：柱や梁が外部に露出し、その柱と柱の間の外壁を漆喰などで埋めた建築様式

充填パネル：ハーフティンバー建築の柱の間に使用される資材のこと（バス・ハウスでは軽量の軽石混合コンクリート）

コンクリート基礎：水と鉱物骨材を混ぜたポルトランド・セメントで作られています。（バス・ハウスにおいては、かなりの割合で微粒軽石が使用されました。）

鉄筋コンクリート：コンクリートを鉄筋で補強したもの。バス・ハウスでは補強のために鉄道のレールや有刺鉄線が使用されました。

木摺（きづち）：漆喰など塗り壁の下地板のこと

エリザベス朝様式：おもな特徴は、左右対称の入口ホール、井筒工法の堂々とした階段、カーブの手摺、手摺を支える柱、窓枠に縦仕切りの入った中方立ての窓などがあります。

切妻屋根：ふたつの傾斜面が山形に合わせた形の屋根の形状

切妻窓：切妻屋根の部分にある窓



ROTORUA  
museum  
OF ART AND HISTORY  
*Te Whare Taonga o Te Arawa*

ロトルア博物館

〔英語名〕Rotorua Museum of Art & History

〔マオリ語名〕Te Whare Taonga o Te Arawa

ロトルア地域自治体

宛先：Private Bag 3029, Rotorua, New Zealand

Tel 07 349 4350 Fax 07 349 2819

Email: [rotorua.museum@rdc.govt.nz](mailto:rotorua.museum@rdc.govt.nz)

Website: [www.rotorua.museum.co.nz](http://www.rotorua.museum.co.nz)

DESTINATION

ROTORUA

ROTORUA DISTRICT  
COUNCIL



## 眺めのいい屋上



05



ROTORUA  
museum  
OF ART AND HISTORY  
*Te Whare Taonga o Te Arawa*

# 眺めのいい屋上

## 火山の眺め

ロトルアは、火山のクレーター内にある街です。空を背景とした全方位に広がる街の輪郭がクレーターの縁になります。酸性度の強いミルクイカラーのサルファー・ベイが、活発な地熱地帯に横たわっています。毎日約8万トンの水がロトルアの地熱地帯から流出し、そのうち、2万8千トンが直接ロトルア湖に流入しています。そしてそのほとんどがサルファー・ベイに入ってきています。岩の露出部分や小島は、湖底でシンター（温泉華）が固まったものであり、ロトルア湖の水面が現在より10~15m高かった過去9千年にわたって沈殿したものです。これらの場所は、アカハシギンカモメ、セグロカモメ、ハシグロカモメたちにとって保護された営巣地となりました。サルファー・ベイ全体と湖畔の一部は、北島の野生生物保護区になっています。水の酸素濃度が低いため、食べ物を求める鳥たちはこの周辺にはあまり見られません。

## TE ROTORUA-NUI-A-KAHUMATAMOMOE テ・ロトルア-ヌイ-ア-カフマタモモエ（カフマタモモエの第二の湖）

ロトルア湖は、ニュージーランドの永久湖の中で最も古いもので、22万年前の激しい噴火の跡に残った広大なカルデラのクレーターにできた湖です。当時の噴火では、オークランド広域地方を2キロメートルの深さで埋め尽くすに十分な約200立方キロメートルの物質が周辺地域から噴出されました。当時の湖面は現在より80メートル高い位置にありました。というのも、周辺のおカタイナ火山の激しい噴火によりロトルア湖の排出口を4万年以上に渡って塞ぐことになったからです。それによりロトルア湖はダム化し、様々な時期に水面が上昇し、これにより周辺に数々のテラス（段丘）が形成されました。ンゴンゴタハ、モコイア島、ヒネモアポイント、カワハポイント、ブケロア（ホスピタル・ヒル）、オフアティウラなどの溶岩ドームは、カルデラを形成した22万年前の噴火ではなく、その後の穏やかな噴火活動における溶岩の噴出により8万年から6万年前に形成されたものです。

## 愛と戦争の物語の土地

ロトルアは、約700年前にこの地を占有したアラワの人々の様々な物語の舞台となっています。アラワ部族にとって重要な場所として、ロトルア湖の中央に浮かぶ宝石のように美しいモコイア島が挙げられます。この高さ180メートルの溶岩ドームの島は、凄まじい戦いの舞台として知られ、そのひとつに1823年ンガブヒの首長ホンギ・ヒカが数日に渡って多数のカヌーで島を取り囲んで侵攻し、住民を嘲り最終的に住民に攻撃を仕掛けて殺戮してしまうという物語があります。一方、モコイア島は美しい愛の物語の舞台としても知られています。オフアタ岬に住む高貴な生まれの少女ヒネモアが、禁じられた恋人トゥタネカイに会うために島に向かって泳いだという話です。トゥタネカイに惹かれたヒネモアは、彼の奏でる美しい骨笛の音の調べに導かれて湖を渡ったといわれています。

## 街の景観

ガバメント・ガーデンズの西側にあったヒネマル通りにはバス・ハウスの療養者のための小規模な宿泊施設が立ち並んでいました。当時の利用者は周辺を歩いたり、設計の見事な庭園を楽しんだりしながら時を過ごしました。バス・ハウスが開館した1908年のロトルアの人口は2千人で、埃っぽい通りには政府所有の建物が立ち並んでいました。今日のロトルア地域の人口は6万7千人以上であり、以前の宿泊施設は、役所関係の建物に変わっています。ロトルアはニュージーランドでも独特の歴史を持ち、1922年に地元自治体に移管されるまでは、中央政府による直接統治を受けていました。

## 複雑な屋根の光景

バス・ハウスの屋根は複雑な傾斜や交差する切妻屋根などエリザベス朝時代の建築様式の影響を受けています。充填パネル、ハーフティンバー、塔、切妻屋根、窓枠に縦仕切りの入った中方立ての窓、先端装飾などの特徴はすべて400年以上の伝統を誇る北半球の建築様式のもので、これはウォルマン医師が、療養患者がどんな天気でも散歩ができるようにと強く主張して実現したものです。屋根の瓦は1964年までブリッジウォーターの瓦が使用され、それ以降はマルセイユ・タイルに変えられて現在に至っています。この見事な建築物には数多くの革新的な特徴があります。例えば、プレキャストコンクリートの充填パネルが使用されたり、重量を軽くするためにコンクリートに地元の軽石を混ぜて使用されたことなどは、記録で確認されるにおいてニュージーランド初の試みでした。

